

防衛省・自衛隊においては、実効性の高い統合的な防衛力の構築のため、各種施策を不断に進めています。

### 1 南西地域の防衛態勢の強化

広大な海域と多数の離島を抱える南西地域の防衛態勢を強化するため、例えば、以下のような取組を行っています。

#### ① 離島の守りの充実

自衛隊の空白地域に部隊を配備

#### ② 有事などに速やかに対処できる部隊への改編

輸送機などにより迅速に展開可能な機動師団・旅団へ改編

#### ③ 空の守りの強化

戦闘機の増強や早期警戒機の配備により、防空体制を強化

#### ④ 離島防衛への備え

離島を防衛するための水陸両用作戦専門部隊を新編

#### ⑤ 部隊をより遠くにより早く輸送する能力の確保

より遠方に、より早く、より多くの人員と物資を輸送するため、各種航空機などを取得

#### ③ 空の守りの強化

##### 那覇（沖縄）

南西航空方面隊を新編  
戦闘機部隊を増強（約20機→約40機）  
早期警戒機の部隊を新編



#### ① 離島の守りの充実

##### 与那国島（沖縄）

日本最西端の与那国島に沿岸監視隊を新編



尖閣諸島

#### ④ 離島防衛への備え

相浦 (長崎)

水陸機動団を新編



#### ② 有事などに速やかに対処できる 部隊への改編

北熊本 (熊本) 第8師団  
善通寺 (香川) 第14旅団

輸送機などにより迅速に展開可能な機動師団・旅団へ  
改編



#### ⑤ 部隊をより遠くにより早く 輸送する能力の確保



従来のヘリコプターと比較して速度、航続距離等  
が向上したV-22を導入

航続距離・搭載能力が向  
上したC-2輸送機を導入

#### ① 離島の守りの充実

奄美大島 (鹿児島)、宮古島・石垣島 (沖縄)

警備部隊  
地对艦誘導弾部隊  
中距離地对空誘導弾部隊



配置済  
配置予定

## 2 新たな装備品の導入など

### 「相手の攻撃が届かないところ」から攻撃できる「スタンド・オフ・ミサイル」



JSM (イメージ)



LRASM (イメージ)

- 隊員の安全を確保しつつ相手の攻撃が届かないところ（スタンド・オフ）から相手を攻撃できるミサイル

※スタンド・オフ・ミサイルについては本文228ページ参照

### より高いステルス性と高性能のセンサーを備えた最新鋭戦闘機「F-35A」



F-35A



- 相手のレーダーに映りにくい性能（ステルス性）が高い
- 高性能のセンサーも装備
- 自らは発見されることなく相手を発見し、攻撃することが可能（本年1月から三沢基地（青森県）に配備開始）

### より遠くの目標をより正確に探知する「空飛ぶレーダー」新型早期警戒機「E-2D」



E-2D

- 早期警戒機は、機体に円状のレーダーを装備し、空中で相手を早期に発見するための航空機。別称は「空飛ぶレーダー」
- E-2Dは、従来の早期警戒機に比べ、より遠くの相手を正確に探知することが可能

### 「様々な任務にも対応できてコンパクト」な新型護衛艦と高性能な潜水艦の建造

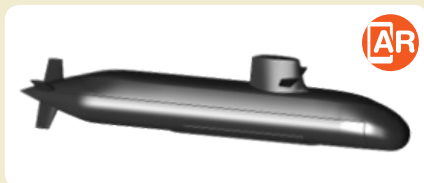


新型護衛艦  
(イメージ)

- 様々な任務に対応可能な新型護衛艦とより高性能な潜水艦を新たに建造

- 将来的には、護衛艦・潜水艦は以下の隻数に

	現在	将来
護衛艦	47隻	→ 54隻
潜水艦	18隻	→ 22隻



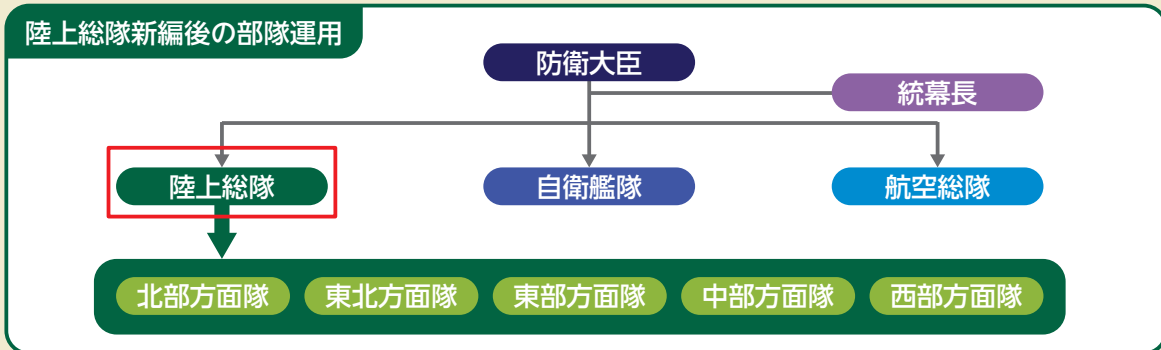
新型潜水艦  
(イメージ)



### 3 陸上自衛隊創隊以来の大改革

#### 「行動時の司令塔」陸上総隊の新編

統合運用の下、陸上自衛隊の部隊の迅速・柔軟な全国的運用を可能とするため、陸上総隊を新編



※行動等に関して部隊を一体的に運用する必要がある場合に指揮

VOICE

陸上総隊の新編について



初代陸上総隊司令官  
陸将 小林 茂  
(写真右側)

今般、全国の陸上自衛隊の部隊を一体的に運用するための組織として、陸上総隊という新たな部隊が編成されました。これにより、陸上自衛隊の部隊の、より迅速・柔軟な全国運用が可能になるとともに、海上・航空自衛隊及び米軍などの効率的・効果的な連携が可能になりました。シビリアンコントロールの下、わが国の平和と安全を守り、国民の皆様へ安心と安全を届けるよう職務に邁進してまいります。

#### 「離島防衛の切り札」水陸機動団の新編

水陸機動団は、水陸両用車などを装備し、離島を防衛するための水陸両用作戦能力を備えた新しい部隊です。



水陸両用車で着上陸する隊員



海自輸送艦へ搭載中の水陸両用車